

横須賀水交會の皆様には、各種行事への温かいご支援をはじめ、隊員の緊急登庁時への援助活動など、常日頃から様々なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

横須賀での勤務は、第1護衛隊群首席幕僚以来約14年ぶりとなります。防衛大学校学生時代の4年間を、ここ横須賀で過ごしていたこともあり、久々に故郷に帰ってきた気分です。横須賀地方総監に着任してからは、



海将 乾 悦久

【横須賀地方総監挨拶】



地元の方々や水交會をはじめとした関係諸団体の皆様との交流を深めさせていただく中で、今まで深く知りえなかった横須賀の文化、歴史などに触れる機会に恵まれ、その都度感慨を新たにしています。現在は、長く続くコロナ禍により未だに行事イベントの実施に制約がある状況ではありますが、可能な範囲でこれらの行事をコロナ禍前と同様に実施できるよう尽力し、日頃から温かいご支援、ご協力をいただいている皆様との良好な関係を維持、向上させていく所存であります。

私の前職は大湊地方総監ですが、横須賀地方隊は、在日米海軍との連携、砕氷艦「しらせ」による南極観測支援、海外派遣部隊の後方支援といった他総監部にはない特殊な任務を有するほか、

発行 令和4年11月14日(月)  
編集 横須賀水交會事務局

その警備区である岩手県から三重県の1都15県には、我が国の政治経済及び日米作戦の中枢が所在しており、テロや不法行動への対処などの大きな使命を担っています。私にとりまして、現職は身に余る重責ではありますが、今後とも陸上自衛隊及び米海軍との基地警備などに関する協同・共同訓練を行い、即応態勢を強化してゆく所存です。

国内に目を向けると、台風、地震、豪雨などに対する大規模災害の防災に関する様々な課題があります。横須賀地方隊の警備区には、我が国の人口の約50パーセントが居住しており、紀伊半島から伊豆半島に至る沿岸部には、東日本大震災を上回る津波被害が予想される地域が多くあります。今後も台風、豪雨災害のみならず、首都直下地震、南海地震などの当警備区に関連する大規模災害に備えて、各地区自

治体との防災訓練に艦艇の寄港を含めて積極的に参加させていただき、実効性のある災害対処能力の向上を図っていききたいと考えております。

(次頁に続く)

**横須賀水交會主要行事予定**

令和5年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會HP (<http://y-suikoukai.daa.jp/>)より御確認下さい。

**1 幹事会**

- (1) 期日 12月16日
- (2) 場所 調整中
- (3) 懇親会 実施の予定

**2 賀詞交歓会**

- (1) 期日 1月14日(土)
- (2) 場所 横須賀商工会議所
- (3) 会費 調整中

**3 靖国神社月例参拝**

来年2月は実施される予定です。

一方で、近年の少子化による募集対象人口の減少傾向の中にあつて、今後も多様化するであろう任務に着実に対応していくためには、隊員の確保とともに、その勤務環境を整えていくことが必要です。新隊員の募集対象年齢上限の引き上げ、元自衛官の再任用などの人事施策とともに、「働き方改革」を通じた、効率的でメリハリのある勤務環境の構築、特に女性隊員が結婚、出産後も活躍できる環境の整備に努めておりますので、皆様には、今後とも隊員家族へのご支援、ご助言を含め、お力添えをいただければと存じます。

結びに、横須賀水交會の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



### 【特別寄稿】

鉛筆艦船画家として迎えた節目の年、「大観艦式2682」を終えて――

鉛筆艦船画家 菅野 泰紀

(すがの ひろゆき)

(横須賀水交會会員)



この度、菅野泰紀鉛筆艦船画展「大日本帝国海軍創設150年記念 大観艦式2682―濤声は凱歌の残響―」を靖國神社遊就館並びに記念艦三笠において開催することが叶い、会期中多くの方にご覧いただきました。また、横須賀水交會の会員の皆様から展示についてご好評をいただいた事は、同会の有志会員としてとても嬉しく光栄に思います。

私は12年にわたる鉛筆艦船画家としての活動を通じ、既に100点を超える作品を描きまし

た。いずれも繊細かつ精緻でありながら、躍動感と臨場感あふれる作品とすべく制作した思い入れ深い作品たちです。作家活動の目的を、絵画奉納による慰霊顕彰と定め、艦内神社(航海の安全と武運長久のために艦内に祀られた神棚)の分霊元神社や関連施設への作品奉納・寄贈を続けています。その理由は、戦争の事実や英霊たちの生きた証、そして軍艦の存在を後世に伝えたいという強い想いがあるからです。戦争を知らない世代がこうして史実を伝えることで、英霊たちの人生、日本国の歴史に光を当てることができるのではないかと。その一念で活動を続けています。

節目が重なる本年(大日本帝国海軍創設150年、保安庁警備隊(海上自衛隊の前身)発足70年、戦艦三笠就役120年や日英同盟締結120年等も重なる)、2つの歴史ある会場に集った渾身の鉛筆艦船画たちを通じ、未来へ日本を残すために散華された英霊を偲びつつ、古今の防

人たちの存在とその伝統や矜持に思いを馳せていただく事ができていたならば幸いです。また、昨今、日本を取り巻く情勢が日増しに厳しさを増しています。展覧会は既に閉幕しましたが、ご観覧ください。皆様のひとりひとりが国防の重要性を見つめ直す機会としていただけたならば、私にとってこれ以上の喜びはありません。

現在、真珠湾にある戦艦ミズーリ記念館が企画展として「Legendary Naval Warriors - The World of Sugano Hiroyuki's Pencil Drawings-」を開催中です。これは、日米の艦を描いた鉛筆艦船画16点(日米の艦それぞれ8点ずつ)を元乗組員の戦歴と共に紹介するもので、かつて戦火を交えた歴史を持つ同盟国同士が、お互いの先人たちに敬意を払い未来を見据える事を主題としています。作者としては、自らの白黒で描かれた作品により、このような形で人と人との様々な繋がりが生まれていく事を、心から喜ばし





く誇りに思います。今後も、初心を忘れることなく、本分である作品奉納・寄贈による慰霊顕彰のための活動を進めてまいりたい所存です。また併せて、鉛筆という画材の秘める可能性と、私自身がパイオニアとして切り拓く鉛筆艦船画というジャンルの可能性を、より多くの方に知っていただくためのイベントを企画したいと考えていますので、ぜひ今後ともご期待ください。



【横須賀散歩】

火 猿

横須賀散歩(外伝) ..

「杖道」の勧め

「杖と刀が、とたんに、噛み合っただけなよりも凄まじい力を持つて、ぱつと離れた。武蔵の方からである。：彼の体は七尺も後ろへ移っていた。しかし、その距離は、権之助の飛躍と、四尺の杖に、すぐ迫られて、『——あッ』と、武蔵は辛くも横へ払い退けた。」

8の一節は、吉川英治の小説『宮本武蔵』の中で、武蔵が「杖」の使い手である夢想権之助と戦う場面です。私が「杖道」に興味を持つ切掛けとなりました。今回の横須賀散歩は少し趣向を変え、「杖道」の勧めです。

それでは「杖道」とは何か。その始祖は、小説に登場した夢想権之助勝吉です。権之助は、今から400年程前に香取神道流剣術の奥義を極めた人ですが、宮本武蔵に敗れ、大宰府天満宮の神域に連なる宝満山に籠り「丸木を以て水月を知れ」との御神

託を得て、長さ四尺二寸一分の丸木を武器とする「杖術」を編み出したと伝えられています。その後、権之助は黒田藩に仕え、「杖術」は藩外不出の兵法として継承されました。明治になり廃藩置県に伴い御留の「杖術」も開放され、一般に普及しました。海軍大臣を務めた八代六郎海軍大将(兵8期)も門人であったそうです。大戦後の一時期、GHQにより武道全般が禁止されましたが、昭和31年には全日本剣道連盟に「杖道」として加盟しています。

その全日本剣道連盟制定杖道は、木刀を持つ打太刀(うちたち)と櫂の杖を構える仕杖(しじょう)が相対する12本の全国普及形を稽古します。実際に打ち合うと大怪我をしますので、あくまで形の稽古ですが、斬りかかる太刀を後の先をとり杖で制するのが基本の動作です。また、それ以外に「古流」と呼ばれる夢想権之助から連綿と伝わる数十の形があり、これを習うことにより、当時の兵法者の技に触れる

ことが出来ます。更に、杖道を稽古する人の多くは、併伝武術である内田流短杖術、一心流鎖鎌術、中和流短剣術なども習っています。

横須賀における「杖道」の稽古は、以下のとおり実施されています。少しでも「杖道」に興味を持たれた方、是非ご連絡を…。

(tabineko2001@yahoo.co.jp)

○水曜日18:00～21:00

…逸見小学校

○土曜日18:00～21:00

…諏訪小学校

さて、冒頭に引用した武蔵と権之助の戦いですが、権之助は母親の導きにより辛くも武蔵と引き分けることができました。この時の技は、「導母の杖」として、今でも神道夢想流杖術の秘伝の一つになっています。(火猿)



## 【参加行事等紹介】

### 1 護衛艦「くまの」

#### 横須賀初度入港歓迎行事

令和4年3月28日(月) 護衛

艦くまの艦長 桜井 淳2等海佐)が横須賀港に初度入港しました。

この護衛艦は「もがみ」型護衛艦(多機能護衛艦(FFM))の2番艦として三菱重工マリタイムシステムズ玉野本社工場において建造され、令和2年11月の命名・進水式を経て、令和4年3月22日に就役、横須賀に入港し、吉倉岸壁に係留しました。

主要目は、基準排水量3,900トン、全長133メートル、幅16.3メートル、深さ9メートル、機関はCODAG(低速機としてディーゼルエンジン2基、加速基としてガスタービンエンジン1基)、速力30ノット、艦内のデジタル化を進め、省人化し、従来型より少ない定員90名。外觀は特徴的で、船体から突起物を減らすことでステルス性を高めているそうです。

当日は、暖かい好天に恵まれ、「くまの」の初度入港を歓迎するかのよう桜もきれいに咲いていました。

「くまの」乗組員は、酒井 良横須賀地方総監、湯浅 自衛艦隊司令官、所在各部隊指揮官のほか、上地克明 横須賀市長、大野 忠明 横須賀市議会議長池田 聡 横須賀海上保安部長、加藤 和男 横須賀警察署長及び協力団体の長等の出迎えを受けました。

桜井艦長から国民の期待にこたえられるよう、また横須賀の皆様にも愛される艦を作ってまいりますと入港挨拶がありました。

酒井横須賀地方総監から、「くまの」は画期的な護衛艦である。少人化、コンパクト化、スペース化を図り、最新の装備を備えるとともに、従来の護衛艦では対応できない機雷への対応能力を備えるなど多様な任務に期待できる護衛艦です。歴史ある熊野川の名前に由来した「くまの」の名前に似合うよう今後大海原を舞台に活躍する事を祈念する旨

の歓迎挨拶がありました。次に上地横須賀市長から、FFMとしてはじめて配備される護衛艦であり、その乗組員である皆さんは今後の海上防衛の中核と担える隊員としてその信頼と期待はゆるぎないものであると拝察。日々励む厳しい勤務の合間において、乗組員とご家族が安心して過ごせるよう横須賀市は今後も全力で支援し、ご活躍されることを心より祈念する旨の歓迎挨拶がありました。

入港歓迎行事終了後、参加者及び報道陣等に艦内が公開されました。

今後待ち受ける多くの困難を克服し、おおいに活躍されることを期待します。

(石井 順 幹事 記)







## 2 令和4年度遠洋練習艦隊

### 横須賀入港行事

前夜からの嵐の影響が残る悪天候と真冬に戻ったかのような寒さの中、令和4年度遠洋練習艦隊部隊(司令官 小牟田秀寛 海将補 以下約630名)の横須賀入港行事が4月1日(金)逸見岸壁に隣接した厚生センターにおいて、着任されたばかりの横須賀地方総監(乾 悦久 海将)により執り行われました。

小牟田司令官、練習艦「かしま」艦長 小野修司1佐、同「しまかぜ」艦長 萬年敬2佐、訓練支援艦「くろべ」艦長 能々太郎2佐及び実習幹部約160名が整列する中、上地克明 横須賀市長から入港歓迎の祝辞あり、引き続き、大野忠明 横須賀市議会議長、青木秀介 横須賀市議会防衛議員連盟会長等の来賓紹介が行われました。

この後、小牟田司令官から、乾総監に対して、3月12日江田島の自衛隊幹部候補生学校を修業し幹部に任官した実習幹部約160名を練習艦「かしま」、同「し

まかぜ」、訓練支援艦「くろべ」に乗艦し、我が国周辺の近海練習航海の最後に横須賀に入港、実習幹部をはじめとする乗組員は当地で研修し上陸することを楽しみにしている旨の挨拶がありました。

式典は、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が解除されたとはいえ、未だ感染防止対策が必要とされた制約で、参加者が部内関係者のほか協力団体の長等に限定されたため簡素ではありましたが粛々とした入港行事でした。

実習幹部を含む練習艦隊乗組員が横須賀寄港中に十分に英気を養ってもらい、元気な姿で4月24日から始まる遠洋練習航海に向かつてもらいたいと思います。

(一瀬 良文 事務局長 記)



## 3 新型潜水艦「たいげい」

### 横須賀初度入港歓迎行事

4月6日(水)新型潜水艦「たいげい」(艦長 土谷 亨2佐)が横須賀港に初入港した。

「たいげい」は「たいげい」型潜水艦の1番艦として三菱重工業神戸造船所において建造され、平成30年3月に起工、令和2年10月の命名・進水式を経て、本年3月9日に就役し、第2潜水艦群・第4潜水隊に編入されました。

この「たいげい」の就役により防衛省・海上自衛隊は、平成22年12月の防衛大綱(22大綱)で初めて定められた潜水艦22隻体制を完成させました。

主要目は、基準排水量3,000トン、全長84メートル、幅9.1メートル、リチウムイオン電池を搭載したディーゼル電気推進方式となります。大容量のリチウムイオン電池搭載により水中における長時間航走と高い運動能力を確保するとともに、高性能ソナーなどを装備し、探索能力やステルス性能にも優れて



いる最新鋭艦です。艦名の「たいげい」は漢字では「大鯨」と書き、大きくなくじらを意味します。過去の同名の艦艇は、戦前、1934年に建造され、1942年に空母「龍鳳(りゅうほう)」に改装された潜水艦母艦「大鯨」があります。当日は、5月中旬並みの暖かい好天に恵まれ、横須賀地方総監執行の入港歓迎行事には、潜水艦隊司令官等各級指揮官、隊員、来賓、各協力団体がコロナ禍間隔をあげ感染防止対策を実施して参加、横須賀水交会も永田会長が代表して参列しました。



初めに、土谷艦長から総監への入港報告が行なわれ、来賓代表として横須賀市長から市を挙げて当地配備を歓迎するとの挨拶がありました。最後に土谷艦長からの戦力化に向けた力強い決意表明とお礼の挨拶で入港歓迎行事は終了しました。今後は「たいげい」型潜水艦の1番艦として、新型ソーナー、2本の非貫通潜望鏡、新型コンソール等の慣熟、戦力化が進むことが期待されています。(吉岡 俊一 幹事 記)

#### 4 世界一周へ「かしま」立ち

##### 令和4年度遠洋練習航海部隊

##### 出国行事

令和4年4月24日、曇天の横須賀基地逸見岸壁において令和4年度遠洋練習航海部隊の出国行事が行われました。過去2回の同行事は、新型コロナウイルス感染防止のため部内のみで行われていましたが、今年は、3年振りに家族等の見送りを受けての開催となりました。横須賀水交会からは、永田会長が来賓として参列したほか、会長の同行者として松下幹事長、隊友会横須賀支部長代理(支部長の濱田幹事は神奈川県隊友会支部長代理)として池田常務幹事、タイ王国留学生のホストファミリーの同行者として鳥居幹事が参列しており、池田常務幹事が持参した数本の水交会手旗がそれぞれに手渡されました。

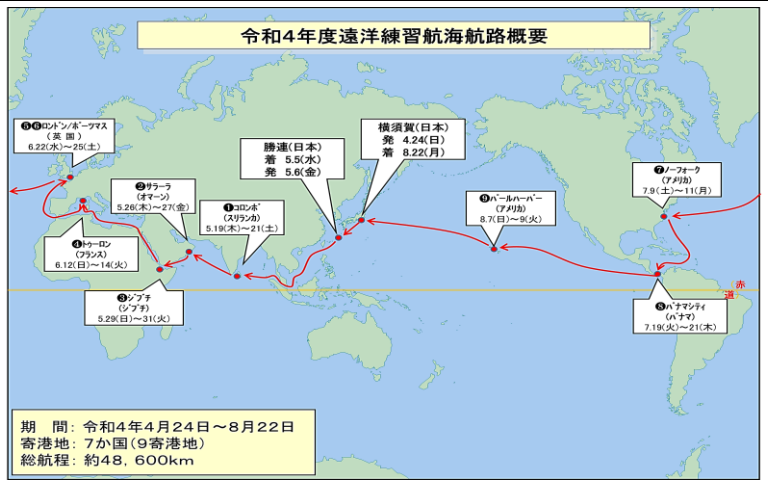
遠航部隊の陣容は、練習艦隊司令官小牟田秀覚将補(幹候44期)を指揮官として、艦長小野修司1佐(幹候46期)率いる練習艦「かしま」及び艦長萬年敬2佐

(幹候49期)率いる練習艦「しまかぜ」の2艦であり、実習幹部である幹候72期生158名(うちタイ王国留学生1名)を含む総員537名が乗艦します。

令和4年度の遠航は、西回りに地球を一周する予定で、デイリ沖(東チモール)、コロンボ(スリランカ)、ジプチ、ツーロン(仏)、ロンドン(英)、ノーフォーク(米)、パナマシティ、パールハーバー(米)を経て8月22日横須賀に帰港するというものです。4か月で世界一周というのは、かなりハードな航海が予想されますが、東チモール(急遽コロナ関連で寄稿せず)とは外交関係樹立20周年、スリランカとは国交樹立70周年、イギリスとは日英同盟締結120周年の節目の年の寄港であり、外交上、十分な配慮がなされています。なお、駐ジプチ日本大使は、第56代練習艦隊司令官で情報本部長を最後に退官した大塚海夫氏で自衛官出身初の大使です。



遠航部隊は、3月12日、幹部に任命されたばかりの実習幹部を乗せて江田内を出港、各種訓練等を実施しつつ神戸及び沖縄の勝連に寄港し、4月1日、横須賀基地に入港しました。横須賀在泊中には、彬子女王殿下のご講話のほか、海幕長始め自衛艦隊司令官等の指揮官及び有識者の講話や防衛省、最新鋭艦「くまの」等の部隊研修、靖国神社や千鳥ヶ淵等での慰霊顕彰などのハ



と歓談する和やかな光景も見られました。

出国行事は、午前9時15分から鬼木防衛副大臣への栄誉礼に引き続き行われ、先ず、鬼木防衛副大臣が「ロシアのウクライナ侵略など厳しい国際情勢下、国民の生命と平和を守り抜くために何を為すべきかという課題をもって臨み、大きく成長して帰国することを楽しみにしている。」と訓示しました。続く田中

ードスケジュールをこなしました。なお、水交会理事長で元練習艦隊司令官でもある杉本氏も講話されています。また、この間の新型コロナウイルス対策として入港直後には3回目のワクチン接種を行い、出国の10日前から艦内に留め、3日前にPCR検査を受検して遠洋航海に臨みました。

出国行事当日は、横須賀音楽隊とかしま艦上の練習艦隊音楽隊によるコラボ演奏が早くから駆け付けた約360人の見送りの家族等を楽しませました。また、岸壁では、練習艦隊司令官と両艦長が来賓など見送りの人々と

自衛隊の将来を担う幹部の育成と訪問国との友好親善に努めてくる旨の出国報告を行って行事は終了し、引き続き、音楽隊の演奏する「行進曲軍艦」に合わせてしまかぜ乗員、かしま乗員、司令部の順に来賓の前を1列縦隊で敬礼しつつ行進してそれぞれの艦に乗艦していきました。

行事が終了すると同時に、在泊艦艇のマストに安航を祈る意

味の影響もあって国民の自衛隊への期待がかつてなく大きい。この航海が、世界に誇る海自のネイバルオフィサーとして活躍する端緒となるよう祈念します。8月に横須賀での再会を楽しみにしています。」と上地市長の来賓祝辞を代読しました。次いで酒井海上幕僚長が、出国準備関係者への感謝と慰労を述べたのち、現下の厳しい情勢にあつて実習幹部は国際感覚を磨き、初級幹部として必要な知識技量を磨き、指導官たる乗員はしっかりと実習幹部を鍛えるよう訓示しました。最後に小牟田司令官が、



味の信号旗が一斉に掲揚され、出国する2艦から速やかに応答旗が揚がりました。やがて「しまかぜ」「かしま」の順に岸壁を離れ、岸壁では自衛艦旗や水交会旗の小旗が打ち振られる中、上甲板の実習幹部及び乗員は、「帽振れ」で見送りの来賓家族に別れを告げました。

(松下 泰士 幹事長 記)

令和4年4月26日、横須賀芸術劇場大ホールにおいて海上自衛隊創設70周年記念行事が挙行されました。

開式前の観客席では、この日招待された水交会や隊友会、家族会等の代表や歴代の海幕長始め元海将のほか、海自支援者な

## 5 海上自衛隊 創設70周年記念式典

### 自由で開かれた海洋に向けて



どが東京音楽隊の演奏に耳を傾けながら談笑する光景が多く見受けられました。なお、新型コロナウイルスの感染予防対策として、招待者は関東地区在住者に限られ、席も一つおきに指定されています。ステージ上は、向かって右側に事務次官、統幕及び陸海空幕僚長またはその代理、関東地区在籍の主要部隊の長が2列で並び、向かって左側は来賓席で祝辞を述べる二人のほか、国会議員、神奈川県議会議員、横須賀厚木周辺自治体の長や議長、海保3管本部長、米海軍から日米海軍司令官、第7艦隊副司令官、第5空母打撃群司令官及び第7潜水艦群司令官が列席しました。



式典は、国歌吹奏、殉職者に対する黙祷、海幕長式辞、防衛副大臣訓示、来賓祝辞、来賓紹介、祝電披露という次第でした。

11時20分定刻、開式の辞に続き、音楽隊の男女2人による国歌斉唱がありました。が、感染予防対策として参加者は心の中で斉唱となりました。その後、四七七柱の殉職隊員の御霊に対し黙祷を捧げたのち、酒井海幕長が式辞を述べました。式辞では、Y委員会の発足に始まる海自創設期から現在に至る海自の歴史を象徴的な活動の事例を引きながら紹介するとともに、創設から現在に至る米海軍との強い絆と日米共同の重要性を強調したことに続き、大きく変化すること全保障環境下、海幕長の所信として「①宇宙、サイバー、電磁波に加え情報や認知という新領域への対応、②海自の旗印である『精強』、『即応』に『持続力』と『スピード感』を追加、③国内防衛基盤の強化、④優秀な隊員の確保、⑤インド太平洋地域への取り組みとして多角的かつ多層

的な安保協力力の推進」と述べました。引き続き鬼木防衛副大臣が、隊員への慰労とこれまで海自支えてきた関係者への感謝を述べるとともに、わが国の平和と安全が海自隊員の双肩にかかっていることを自覚し勤務して貰いたいと訓示しました。来賓祝辞では、岡部第19代海幕長が、多くの逸話にユーモアを交えながら、海軍がブルーウォーターネイビーを目指したように海自もこれを目指し、湾岸戦争後の掃海部隊の活躍が国際貢献に道を拓き、外洋で活動するようになったこと及び今後とも世界の平和と安全を守るためブルーウォーターネイビーとして発展することを祈念する旨を述べました。次に祝辞を述べたのは河野前防衛大臣で、世界第6位の海岸線と排他的経済水域を持ち、貿易量の9割以上を海洋に依存するわが国にとって海自の役割が如何に重要かを述べるとともに防衛大臣時の隊員施策等について紹介しました。

最後に歴代の防衛大臣はじめ



国会議員や関係自治体の長などからの祝電が披露されて閉式となりました。

次の80周年は、77年の海軍の歴史を凌いで迎えることとなります。冷戦後の海自は国際貢献と中国の野望への備えや北朝鮮の弾道ミサイル対処など任務は増加し多様化しています。そのような中、国連安保理常任理事国ロシアがウクライナを侵略するという暴挙に出ました。これからの10年は予断の許さないとになると思われますが、もしかしたら海自も70数年でその歴史を閉じ、海軍として再出発しているかもしれません。(松下 泰士 幹事長 記)



## 6 護衛艦「もがみ」横須賀初度入港歓迎行事参加

5月9日(月) 護衛艦もがみ(艦長 関 健太郎2等海佐)

が横須賀港に初度入港しました。護衛艦「もがみ」は文字通り「もがみ」型護衛艦の1番艦で先月28日に三菱重工長崎造船所で就役し、横須賀港に入港、吉倉岸壁に係留しました。

北風の吹く全天雲に覆われた肌寒い天気の中、「もがみ」乗組員は、乾 横須賀地方総監、湯浅 自衛艦隊司令官、所在各部隊指揮官のほか、上地克明 横須賀市長、大野忠明 横須賀市議会議長及び協力団体の長等の出迎えを受けました。

乾横須賀地方総監から、多様な化する任務に対応するため建造された「もがみ」の一日も早い戦力化と最上川のように雄大に活躍し「もがみ」型リーダーシップとしての良き伝統を築くよう期待する旨の歓迎挨拶がありました。次に上地横須賀市長から、1番艦の初代乗組員である皆さんは今後の海上防衛を担う

隊員としてその信頼と期待はゆるぎないものであると拝察、日々厳しい勤務の合間において、乗組員とご家族が安心して過ごし、そして後顧の憂いなく任務に邁進できるよう横須賀市は今後も全力で支援する旨の歓迎挨拶がありました。

「もがみ」は、基準排水量3,900トン、長さ133m、5インチ砲や対艦ミサイルなどのほか対機雷戦ソナー、無人航走体(UUV、USV)を装備し、乗組員は約90名の護衛艦である。今後待ち受ける多くの困難を克服し、一日も早い戦力化を期待します。

(一瀬 良文 事務局長 記)



## 7 インド太平洋方面派遣部隊 出国行事

6月13日(月)、横須賀基地逸見岸壁において「令和4年度インド太平洋方面派遣部隊」の出国行事が行われました。前日まで降り続いていた雨も上がり、派遣部隊隊員はもとより見送りに来られた百名を超えるご家族や隊員の皆様にとっても最高の「鹿島立ち」日和になりました。

平成29年度に始まったインド太平洋方面派遣訓練は今回で5回目になります。派遣部隊はインド洋や南シナ海といった我が国の安全保障にとって極めて重要な海域を巡りながら沿岸国との共同訓練や親善訓練を通じて関係国との信頼醸成を図り、当該海域の安定に貢献してきました。

今回の派遣部隊は平田利幸第4護衛隊群司令を指揮官に、護衛艦「いずも」「たかなみ」「きりさめ」からなる水上部隊と3空のP-1、81空のUP-3D、71空のUS-12からなる航空部隊及び潜水艦1隻から編成され、一部

の訓練には陸上自衛隊の水陸機動団の隊員も参加します。公表資料によると、リムパック、パシフィックパートナーシップ、日米韓共同訓練、豪州海軍主催多国間共同訓練等への参加が予定されており、訪問する国々も米国、インド、オーストラリア、ベトナム、フィリピンに加え、サモア、トンガ、パラオ、バヌアツと言った太平洋諸国の名も挙がっています。先日、日中の外務大臣が相次いで太平洋諸国を訪問したことが話題になっていました。が、派遣部隊の訪問がさらに好い効果をもたらすことを願っています。

求められている」と述べられたように、派遣部隊は刻々と変化する世界情勢にも的確かつタイムリーに対応していく必要があります。これらの期待に応えるような平田群司令の気迫の籠った出国報告が終了すると、軍艦マーチに合わせて「いずも」、「たかなみ」の乗員が乗艦し、行事参加者や在泊艦艇の乗員ばかりでなく、ヴェルニー公園に集まった熱烈的な海自ファンからも盛大な見送りを受けながら母港横須賀を後にしました。

派遣部隊の任務完遂と乗員の皆様のご健勝を祈念しますとともに、十月末の帰国時には国内のコロナ感染が完全終息していることを心から願っております。

(永田 美喜夫 会長 記)



## 8 令和4年度

### 遠洋練習航海部隊帰国行事

令和4年8月22日(月) 10時30分から、海上自衛隊横須賀地方総監部逸見岸壁において令和4年度遠洋練習航海部隊(練習艦隊司令官 小牟田 秀覚 海将補 以下 実習幹部約160名(うち女性自衛官約20名)を含む約530名)の帰国行事が行われました。(執行者 横須賀地方総監 乾 悦久 海将)。当日は、曇りで強い日差しは遮られ、短時間でありますが冷却用ミストのような霧雨が降りました。





逸見岸壁では、練習艦「かしま」(艦長 小野 修二 1等海佐)、「しまかせ」(艦長 萬年 敬 2等海佐)を待ちわびていた隊員家族らが来賓を含め約200名と多数で迎えました。

帰国行事では、酒井海上幕僚長をはじめとする各級指揮官、国会議員、横須賀市長等 来賓が参加され、小野田 紀美防衛大臣政務官、海上幕僚長からの訓示、来賓代表として上地 克明 横須賀市長から祝辞がありました。



式典終了後、実習幹部は艦上で司令官・各艦艦長・乗員と挨拶を交わした後、岸壁に整列して、帽振れを行い、艦を後にしました。

初任監部諸官の今後の活躍を祈念します。

(石井 順 常務幹事 記)

9 横須賀教育隊修業式に

おいて、横須賀水交會から

激励賞を授与

横須賀水交會(会長:永田美喜夫)では8月26日(金)横須賀教育隊第17期一般海曹候補生課程、第378期練習員課程及び第67期練習員(女性)課程の修業式において、成績優秀者4名(男性2名、女性2名)に対し、表彰状及び記念品を贈呈しました。

第17期一般海曹候補生課程622名(男性:492名、女性:130名)、から男女各1名及び第378期練習員課程139名及び第67期練習員(女性)課程83名から各1名が選考されました。

コロナ禍、修業式は家族と部内来賓のみで、一般海曹候補生課程と練習員課程を分け2回の修業式が実施されました。

ただし、横須賀水交會激励賞は、横須賀水交會会長から授与をお願いするとの意向が示され、永田会長が表彰者として参加しました。

式典は、まず駐屯地体育館に

おいて第17期一般海曹候補生課程の修業式が約1000名のご家族を迎えて実施され、次に第1体育館において第378期練習員課程及び第67期練習員(女性)課程の修業式が約300名のご家族を迎えて、いずれも整齐と実施されました。

激励賞授与は、永田会長から直接贈呈され、制限の多い課程教育の一つの記念になったものと思います。

今回、以下の方々が表彰されました。

- 第17期一般海曹候補生課程
  - 2等海士 後 藤 玄 周 (ごとう げんしゅう)
  - 2等海士 山 田 彩 加 (やまだ あやこ)
- 第378期練習員課程
  - 2等海士 井 出 建 心 (いで けんしん)
- 第67期練習員(女性)課程
  - 2等海士 飯 田 睦 (いいだ むつみ)



「コロナ禍で、制約と我慢の多い学生生活を余儀なくされたと思います。同期の絆が深まったことと思います。今後は部隊において更なる研鑽を積み、海の防人として大きく成長されることを横須賀水交會一同祈念するとともにこのような活動が次世代を担う海上自衛官及び参列の各級指揮官に対する水交會の理解の一助となれば幸いです。

(吉岡 俊一 常務幹事 記)



駐屯地体育館



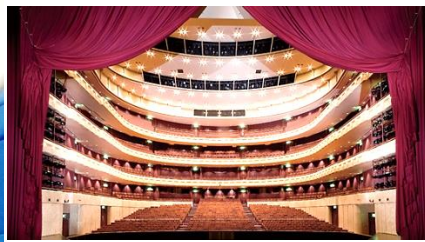
第1 体育館

海上自衛隊横須賀音楽隊  
横須賀地方隊開隊70周年記念

**ふれあい  
コンサート  
2022**

2022年9月9日(金)  
よこすか芸術劇場

主催：海上自衛隊横須賀地方総監部



10 海上自衛隊横須賀音楽隊  
横須賀地方隊開隊70周年記念  
ふれあいコンサート2022  
令和4年9月9日(金)昼頃降  
っていた雨もやみ、18時30分  
から、横須賀市汐入にある「よこ  
すか芸術劇場」大劇場にて、海上自  
衛隊横須賀地方総監部主催「海  
上自衛隊横須賀音楽隊 横須賀  
地方隊開隊70周年記念 ふれあ  
いコンサート2022」が開催  
されました。

横須賀水交會会長も招待頂き  
会長代理他1名が参加し、素晴  
らしい音楽を堪能しました。横  
須賀音楽隊のふれあいコンサー  
トは昨年コロナの影響で中止と  
なっています。

招待者は湯浅自衛艦隊司令官、  
俵潜水艦隊司令官他各指揮官及  
び上地横須賀市長、米軍関係者  
等でした。来場者は、約800名  
だそうです。

始まる前のひと時も6名の横  
須賀音楽隊の方々の「赤とんぼ」  
等の演奏と歌で楽しませて頂き  
ました。



演目の1部は開隊70周年とい  
う事で海上自衛隊、横須賀、海を



テーマに、2部は、親しみ深いポップス等でした。

1部は「令和元年度観艦式ファンファーレ&テーマ」に始まり「錨を上げて」、「海上自衛隊歌「海を行く」、「うみ」、「シーガル」ではアルトサクソフオーンの独奏でした。1部最後は、「吹奏楽のための組曲“ヨコスカの海と風”」横須賀地方隊開隊60周年記念曲」であり、3部構成となっており、まるで映像が見えるような感覚となる楽曲でした。作曲者 小長谷 宗一氏も来場されており紹介がありました。

2部では、「デイズニー・クラシックス・レビュー」なじみのある曲で始まり、「パニクキッチン協奏曲」キッチン用具と吹奏楽のための」ではシェフに扮した奏者がキッチン用品を使って演奏するという楽しいナンバーで米軍関係者の方々には大いに受けたようで、笑い声が聞こえてきました。続いて軽快な「マンボ No.5」、「Story」が、「デイスコ・キッド」では

昔を懐かしんで身体でリズムを取られるかたもいらっしやいました。アンコールは、もちろん「軍艦行進曲」でした。会場の皆様で手拍子で盛り上がり終わりました。

吹奏楽のパワーと調和を感じる楽しいコンサートでした。横須賀地方隊開隊70周年を祝し、横須賀総監部及び横須賀音楽隊の皆様にも本コンサート開催に感謝します。

(石井 順 幹事 記)



### 11 インド・太平洋方面派遣

#### 部隊帰国行事

令和4年10月5日(水)、小雨の中13時からインド・太平洋方面派遣部隊、護衛艦「いずも」、護衛艦「たかなみ」の帰国行事が横須賀逸見岸壁に横付けした「いずも」の格納庫で自衛艦隊司令官 湯浅秀樹 海将により執り行われました。



乾横須賀総監等各指揮官及び隊友会、横須賀水交會会長、湘南水交會会長等36名の来賓、乗員のご家族等約180名が出迎えました。

帰国行事終了後、希望者に対し、約1時間艦内見学が行われました。

多くの方々が4か月振りの家族等の対面の時間を味わっていました。乗員の皆さんは、休暇取得後すぐに国際観艦式の準備に入ります。





【トピックス】

1 令和4年度横須賀水交會

定例総会・講演会・懇親会開催

6月2日(木)横須賀水交會の令和4年度定期総会及び講演会が、よこすか平安閣において、万全の新型コロナウイルス感染症予防対策を行った上で開催されました。



総会の参加人数は82名、永田会長を議長として、3つの議案について審議が行われいずれも賛成多数で可決されました。

各議案については、次のとおりです。(内容の詳細については、横須賀水交會HP掲載中)

① 令和3年度活動報告(令和3年4月1日から令和4年3月31日)

多くの活動が計画されたがほとんどが新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。そのような中、防衛関係諸団体との連携の維持を図るとともに、感染状況確認、感染症対策を講じた上で令和3年度横須賀水交會定期総会を開催し、人数制限をうけるなかでの艦船の出入港行事への参加等一部の活動に関しては実施しました。

② 令和4年度役員等

新任及び担当の変更は6名です。辞任する18名の幹事の紹介があり、長年にわたる横須賀水交會のために尽力され、横須賀水交會の充実、発展に大きく寄与された御功績に対する感謝状が永田会長から代表 信兼 旭男幹事に授与されました。

③ 令和4年度活動計画

水交會本部の「令和4年度

事業計画」に基づき、横須賀水交會の令和4年度活動計画を策定。なお、一部の活動等は、本来ならば計画すべき事業であるが、新型コロナウイルス感染症対策のために取り止めるものもあります。

質疑応答においては、会員からの会勢拡充についての質問に対し、会員限定の団体保険加入案内及び新たな活動として会員による防衛講座(横須賀水交會防衛講座(仮称))の試行を検討していると回答しています。

引き続き「海上自衛隊の現状について」と題して、横須賀地方総監 乾 悦久海将による講演が行われました。乾海将は今年3月末に横須賀地方総監に就任されました。講演会の参加者は117名であった。内容は、①海上自衛隊戦略指針②海上自衛隊の活動③予算と主要事業④情勢であり、1時間半に及ぶ講演を時折ユーモアを交えながら実施された。最新の情報を図、数値、グラフを交えて分かりやすく説



明して頂きました。海上自衛隊の活動が一段と重要性を増すとともにその活動範囲も拡大していることを認識し、コロナ禍における隊員の厳しい勤務環境について改めて認識できた貴重な時間でありました。



講演終了後、会場を移して懇親会が行われました。来賓として、小泉進次郎衆議院議員はじめ県議・市議及び防衛関係諸団体代表等から多数の参加を得たほか、海上自衛隊から横須賀地方総監、前任伍長等が臨席しました。

127名の参加者は懇親会場のあちこちで再会を喜ぶとともに新たな交流の輪を広げました。特に久し振りに横須賀地方総監と直接挨拶ができることが並らびました。



主催者としては、万全の対策はとったとはいえ、クラスターの発生を心配したが、関係する情報は皆無で、この日のすべての行事を成功裏に終えることができました。

後日談・令和4年6月2日当日の新型コロナウイルス新規感

染者数は、神奈川県では218名、現在はB.A.5によるものと報道されている第7波が日本を襲い、神奈川県の新規感染者数が7月18日には一日9,445人となりました。6月2日(木)の定期總會の開催は絶妙なタイミングであったと考えられます。(石井 順 常務幹事 記)

## 2 令和4年度横須賀夏季

### 防衛講座

令和4年8月20日(土) 15時から「令和4年度横須賀夏季防衛講座」が記念艦三笠において、横須賀防衛協会、横須賀水交會等8団体の共催で3年振り行われました。

講師は、川崎重工工業顧問(前統合幕僚長)の河野克俊氏であり、演題は「日本の安全保障と課題」でした。出席者は、160名超であり、乾横須賀地方総監、横須賀地方隊前任伍長、横須賀弾薬整備補給所長、横須賀上級海曹会会長、水交會理事長も参加されました。

講演内容は、ウクライナ戦争

が日本の安全保障に与える影響等講師の御見解及びご自身が現役時代に経験された故安倍元総理の人となりのエピソード、韓国レーダ波照射事案等貴重なお話を頂きました。大変わかりやすくお話しいただき、講演自体は約一時間でしたが、大変短く感じるほどでした。

新型コロナウイルス予防策を行われた上での開催であり、参加者入場の際、一人ひとりの手指の消毒、体温測定は行われていました。(石井 順 幹事 記)



【お知らせ】

寄付のお知らせ

寄付芳名 かとり三浦会

(81年遠洋航海)

20,000円

横須賀水交會對するご芳志  
まことに有難うございました。

(一瀬 良文 事務局長)

水交會「定期講演会」

動画配信のお知らせ

水交會(東京)では講師を招き毎月定期講演会を開催しております。過去の定期講演会の一部を動画配信しています。詳しくは水交會ホームページの「定期講演会実績」をご覧ください。(石井 順 幹事 記)

横須賀水交會 全会員用

メーリングストについて

「メールによる 会員の皆様への行事等のご案内」を行っております。つきましては、メーリングリストへの登録を希望される方は次の要領で「登録」をお願いいたします。

① 登録用アドレス

memberlist\_regist@

y-suikokai.sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名：海尾 護

(2) 会員番号：0174183

(3) メールアドレス

umiomamoru@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます。何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報ください。以上、よろしくお願いたします。

(檜森 晃治 幹事 記)



叙勲受章者(春の叙勲)

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

令和4年春の叙勲者

瑞宝重光章・・・杉本 正彦

瑞宝中綬章・・・石見 次郎

危険物業務従事者(4月9日付)

瑞宝双光章・・・鈴木 典之

平子 清二

危険物業務従事者(11月3日付)

瑞宝双光章・・・工藤 守

(一瀬 良文 事務局長 記)

訃報

4月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

五味 睦佳(4月2日)

相澤萬里之(4月21日)

高田 忠(5月15日)

吉沢 誠(7月)

時政 真一(9月17日)

竹下 邦雄(9月24日)

藤井 哲夫(10月3日)

(一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員

令和4年2月～9月

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

編入 なし

入会

原田 寿之(有志) 栗城 真理子

(有志)日向 ゆみ子(事務官)

平井 茉莉(有志) 天沼 秀俊

(幹候39) 栗田 篤(有志)

大川 努(幹候39) 小野 哲(有志)

(菅野 優(有志) 石島 隆

(有志) 金子 勝祐(有志)

佐野 恭子(有志) 竹部 翼

(有志) 関藤 雅彦(部内18)

田中 謙吾(有志) 渡 正人

(有志) 松井 隆志(有志)

長島 みさき(有志) 塩田 好一

(有志) 岩見 豊(有志) 金澤 英俊(有志)

(桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

新型コロナウイルス及びロシアのウクライナ侵攻の終結が見えない状況の中ではありますが、各行事は感染対策を講じて開催され始めています。前号は8頁でしたが、今回は久しぶりの16頁となりました。編集担当としては嬉しい?悲鳴です。紙面充実のため、寄稿等よろしくお願いたします。

(編集担当 石井)